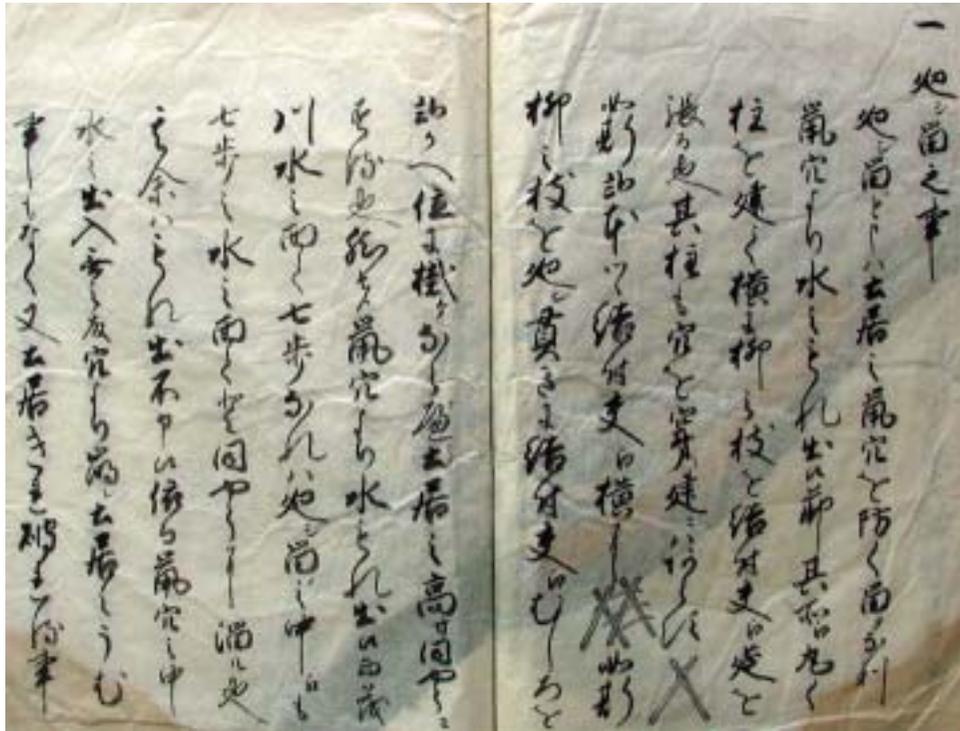


12. まわとめ 廻し留



図中文章(現代語要約)

洪水防止(水防工法)の五ヶ条の一つ。

「廻し留」は、土居に開く「鼠穴(水が漏れる穴)」を防ぐ工法である。

鼠穴から水が漏れ出る時は、その箇所を覆うように円形に柱を立てて、横に柳の枝を結び付け、筵(むしろ)を張る。その柱も穴を掘って立てるのではなく、二本ずつ結び付けて、柳の枝を並べて結び付け、筵を掛けて並べ、堤防の高さと同じくらいにする。

そうすれば、水が漏れて、川の水面が堤防高さから70%程度であれば「廻し留」の中へも同様の水位まで水が溜まる。よって、鼠穴の中の水の流入は無いので、穴が崩れて堤防が崩壊することもなくなる。

もっとも、新しい筵は水を通さないということは古くから試されて知られていることである。